

胃がんリスク検査(採血)について



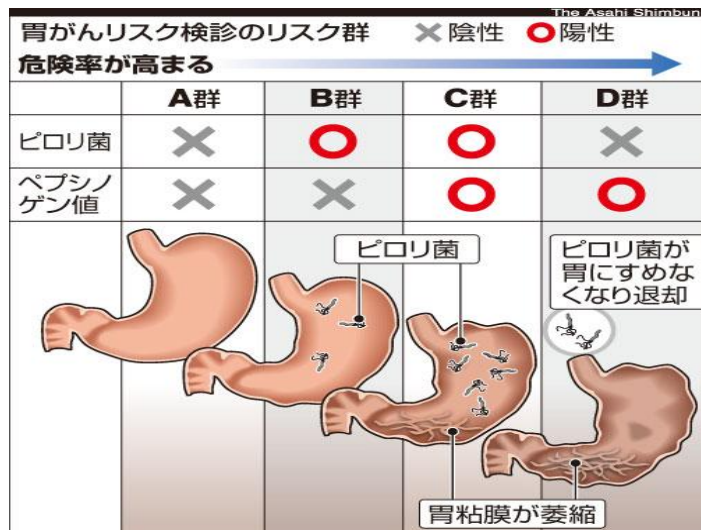
簡単な血液検査で「胃の健康度」を調べることができます。胃潰瘍や胃がんの原因と考えられている**ピロリ菌**と胃粘膜の老化度がわかる**ペプシノゲン**の二つを血液で調べることによって胃粘膜の状態から胃がんリスクを調べます。胃の画像検診で異常が見つからない方も、この検査をきっかけに胃がんが見つかった例があります。

★ピロリ菌とは・・・

胃の粘膜に生息している細菌です。慢性胃炎や胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃がんなどの原因となります。日本でピロリ菌に感染している人はおよそ 6000 万人、50 歳以上の方の感染率は 80%を超えと言われています。

★血清ペプシノゲンとは・・・

ペプシノゲンという消化酵素のもとを測定することで、胃粘膜の老化(萎縮度)を調べます。胃がんは萎縮が進んだ粘膜から発生すると考えられていて、萎縮が進んだ胃炎を萎縮性胃炎と呼びます。萎縮が進むと、数値が下がり、結果が陽性になります。



結果表には・・・

胃がんリスク	項目	基準値	結果
	ペプシノゲン	(-)	(+) ※1
	ヘリコバクタピロリ	10未満	30 ※2
	判定		4 ※3

※1 : (+) 陽性→胃粘膜異常→消化器科を受診して下さい。

※2 : 10以上は陽性→ピロリ菌に感染→消化器科を受診して下さい。

※3 : 4判定となったときは当院または、お近くの消化器科を受診して下さい。

出典 : 2010 年 7 月 22 日 朝日新聞

プロトンポンプ阻害薬服用中の方、腎不全の方、胃切除手術を受けたことのある方は正確な結果が出ない為、検査を受けることができません。

この検査は、血液で簡単に胃がんのリスクを調べることができますが、どちらの数値も陰性であっても胃がんを否定するものではありません。胃透視検査や胃カメラと一緒に受けることをおすすめします。

